

|        |   |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 安全・安心で潤いのある学校 生き生きと学ぶ活力のある学校 豊かな心と身体を育てる人間関係さわやかな学校<br>家庭・地域とともにある信頼される学校   |
| 重点目標   | 1 「自律して学ぶ力」を育む学習指導の充実<br>2 「自立してたくましく生きるための心と身体」の育成を図る教育の推進<br>安全・安心で豊かな学びを保障する教育環境の整備・充実<br>3 子どもの未来・地域の未来をつくるコミュニティスクールの推進<br>4 生き生きと学ぶ活力のある持続可能な教職員組織の構築 |

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、  
方策の評価指標」を設定。

|     |   |       |        |
|-----|---|-------|--------|
| 達成度 | A | ほぼ達成  | （8割以上） |
|     | B | 概ね達成  | （6割以上） |
|     | C | 変化の兆し | （4割以上） |
|     | D | 不十分   | （4割未満） |

| 学 校 自 己 評 価 |  |                                 |   |   |  |     | 学校運営協議会による評価  |   |
|-------------|--|---------------------------------|---|---|--|-----|---|---|
| 年 度 目 標     |  |                                 |   | 年 度 評 価   |  |     | 実施日令和7年2月3日   |   |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目                            | 具体的方策   | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況  | 達成度 | 次年度への課題と改善策   |   |
| 1           | (現状)<br>・授業中落ち着いて学習に取り組んだり前向きに取り組んだりする児童が多い。また、タブレットの活用に対する関心は高く、進んで取り組むことができる。<br>・学習指導におけるICTの活用については、教職員研修等を行うことを通して取組を進めている。<br>(課題)<br>・基本的生活習慣・学習習慣の定着に向けて、取組を進める必要がある。<br>・指導の個別化、ICTの効果的な活用を含めた授業等学習指導の改善について、研究を進める必要がある。                   | 「自律して学ぶ力」を育む学習指導の充実             | ① ドリルパーク等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟及び各単元で練習問題に取り組む時間を確保するための授業展開の工夫に取り組む。<br>② 授業において、自分で考える時間、友達の意見を聞く時間、自分たちで考えをまとめる時間を確保し、児童が学習のつなぐりに気づき、意識できる授業展開、掲示の工夫に取り組む。<br>③ 家庭、地域と連携した基本的生活習慣、学習習慣の定着に向けた取組を実施する。 | ① 市学習状況調査（国語・算数）の数値（「知識・理解」及び「思考力・判断力・表現力」）を2ポイント向上させる。<br>② 学期単元まとめテスト（算数）（「知識・理解」及び「思考力・判断力・表現力」）で、1学期より2ポイント向上させる。<br>③ 学校評価（児童）「自分で考えて、進んで勉強している」「授業の課題や主題に最後まで取り組んでいる」について肯定的な回答の割合が90%以上となったか。                        | ①国語「知識・理解」－7.4<br>「思考力・判断力・表現力」－5.1<br>算数「知識・理解」－5.5<br>「思考力・判断力・表現力」－5.8<br>②国語「知識・理解」＋5.2<br>「思考力・判断力・表現力」＋5.6<br>算数「知識・理解」＋1.9<br>「思考力・判断力・表現力」－0.3<br>③「自分で考えて、進んで勉強している」88%<br>「授業の課題や主題に最後まで取り組んでいる」87%<br>教師用や児童のPCを活用した授業や「自分で考える時間・友達の意見を聞く時間・自分たちでまとめを考える時間」の実践は成果として表れてきていると考える。                    | B   | アクティブ・ラーニングの推進のために、基盤となるICT環境の充実、協働学習用ソフトの活用能力の向上や現在の取組みを「メタ認知」に向けた「つかむ」「見通す」「自力解決」「協働解決」「練り上げ」の主体的な学びを通した「よい授業」として進化させることで実現を図る。 | タブレットを活用した授業がどの学年でも見られ、以前と比べて学習の形態が随分変わったと感じる。授業の構成の中で、タブレットを活用する時間や方法を考えてさらに効果的な学習ができるようになればと思う。「教える」から「学ぶ」学習へと変わっていく中で、児童生徒は受け身ではなく主体性を伸ばしていくことが分かった。 |
| 2           | (現状)<br>・素直で優しい児童が多い。人への関心が高く、他者を受け入れる姿勢がある。<br>・係や委員会活動、学校行事などに意欲的に取り組んでいる児童が多い。<br>(課題)<br>・学校評価（児童）「学校に来るのは楽しい」回答した児童の割合が86%である。<br>・全学年単学級のため、他者とのかわりが固定化している。<br>・児童一人ひとりに応じた指導や支援について、組織的な対応が求められている。<br>・校内の安全や事故防止について、設備や体制を見直し、再構築する必要がある。 | 児童の自己肯定感・自己有用感を高める教育活動の実施       | ① 授業等における異学年による学び合いの機会を設ける。<br>② 他者（児童同士、他校の児童生徒、教職員、保護者・地域の方々）との交流の場・機会を設ける。<br>③ 学級活動、児童会活動、学校行事等において、児童が主体となって活動する機会を設ける。  | ① ②学校評価（児童）「学校に来るのは楽しい」について肯定的な回答の割合が85%以上となったか。<br>② 学校評価（児童）「先生は、がんばったことをほめてくれる」について肯定的な回答の割合が90%以上となったか。   | ①88%＋2<br>②87%－3<br>①②ともに目標値に近い結果であった。児童会の活動や行事、学級活動において、児童主体の学級・学校づくりを行っていることで、児童は自己肯定感・有用感が高まり、自律心が伸びていると考える。  | A   | 振替休業日のない土曜授業日が無くなる等、年間授業日数が202日となることに伴い、児童会の活動や行事、学級活動における児童主体の学級・学校づくりを日程や内容を工夫・調整しながら継続して行っていく。                                 | どの教室も黒板の右側にPCの画面を表示し、左側に先生が板書をするという共通の使い方をされているので、学年や先生が変わっても授業を受けやすいだろうと感じる。   |
|             |  | 児童の安全・安心で豊かな学びを保障する教育環境の整備      | ① 職員集会や生徒指導・教育相談委員会で必要な児童の状況や情報を丁寧に交換し合い、アプローチの共通理解を行う。またSC・SSW・関係機関のアセスメントを参考にした丁寧な教育相談を実施する。<br>② 校内設備や体制を見直し、再構築するとともに適切に実施する。   | ① 学校評価（保護者）「教職員は子どもの悩みやトラブルなどについて肯定的な回答の割合が85%以上となったか。<br>② 学校評価（保護者）「学校は事故防止への配慮をしている」について肯定的な回答の割合が92%以上となったか。  | ①83%＋2（児童91%＋3）<br>②89%－2<br>教職員は児童が登校している間、児童と向き合う機会を確保し、児童一人ひとりに応じた指導支援が充実するように努めている。管理職も給食指導や休み時間も教室や校庭で観察や指導を日常的に行っている。雨漏り、階段の手すりに係る修繕・整備や食物アレルギーに係る迅速・誠実な対応を行っている。  | B   | 指導や支援を充実させるための基盤となる「観察」「点検」「環境整備」「見届け」を丁寧に行う。<br>教育委員会、関係機関、関係業者等の専門職員や専門職との連携を丁寧に行い、安全教育と安全管理を相互に関連付けて、自助・共助が主体的にできる児童を育てる。      | 配当される予算は限りがあると思うが、引き続き「豊かなかわりあいの充実」や「安全・安心な環境」を整えていってほしい。   |
| 3           | (現状)<br>○保護者ボランティアを募集するシステムが整い、活動が進められている。<br>○学校運営協議会主催による取組（小中合同あいさつ運動、長期休業中の宿題教室）を行うことができる。<br>(課題)<br>・音楽・図工・家庭科・体育等、専門家から学ぶ機会や地域の人などが、授業に協力できるとよい。<br>・コミュニティスクールや学校運営協議会の取組についての周知が十分ではない。   | 地域・関係機関との連携・協働                  | ① 保護者・地域ボランティアの活動について方法や内容を工夫して実施する。<br>② 地域人材の整備や見直し、新たな確保等を進め、地域の教育資源リストを作成し、活用する。<br>③ 桜山中学校や近隣の教育機関との連携を図るため、年間を通した取組を計画的に実施する。<br>④ HPや便り等を活用して、学校や保護者・地域との連携の状況、学校運営協議会の取組について周知する。               | ① ボランティア活動の機会や参加人数が昨年度より増えたか。<br>② 年度末までに、地域の人材確保を進め、「地域の教育資源リスト」の作成をより充実させることができたか。<br>③ 学校評価（教職員）「学校間の継続に関する工夫がなされているか」について肯定的な回答の割合が85%以上となったか。<br>④ 学校評価（保護者）「学校は、行事や授業などの情報が家庭によく分かるようにしている。」について肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 | ①学習指導のお手伝い、掲示物の作成、クラブ活動のお手伝い、除草作業等、昨年同様、50～60人の保護者の方のボランティアがあった。また、桜山中学校・開智中等学校・岩槻高校との交流により、授業支援や環境整備の支援活動を実施していただいた。<br>②様々な形で学校や各学年で教育活動を支えていただいた方々の記録を残し次年度以降も活用できるようにしている。<br>③93%＋8 桜山中学校とは合同の学校運営協議会や教員研修で相互に運営状況や児童生徒の指導状況を理解し合うことができた。<br>④92%－3 授業参観や土曜参観、学校公開、個人面談、週報や各種お便りのアプリ配信等、様々な形で情報が伝わるようにした。 | A   | 保護者のサポート隊や地域の方々、近隣学校の連携による、登下校の安全ボランティア、あいさつ運動、学習支援、環境整備等、教育活動を行う上での様々な支援を継続してスクールコミュニティとしてのさらなる関係を築き、地域に信頼される学校づくりや地域教育力の向上を図る。  | 児童生徒数が少ないことで相対的に多様な関わり合いの充実を期待する。<br>学校から保護者・地域への情報発信をさらに工夫し発展させられると保護者や地域の方の学校教育への理解と協働が伸びていくのではないと思う。   |
| 4           | (現状)<br>・ICTの活用については、授業改善、業務改善の両面で取組を進めている。<br>・「授業づくりチェックシート」を活用した教職員同士の参観による授業改善を実施している。<br>(課題)<br>・新たな教育課題への対応については、継続して研修を実施していくことが必要である。<br>・教職員数が減少し、一人ひとりの教職員が担う業務量が増加。業務改善を継続していく必要がある。   | 生き生きと学ぶ活力のある教職員集団の育成            | ① 教職員のITリテラシーや教育課題への対応力向上のため、年間を通して学校課題研修や校内研修を計画的に実施する。<br>② 教職員一人ひとりのキャリア段階や役割（担当分掌）に応じた研修を計画的に実施する。  | ① 学校評価（教職員）「校内研修は計画的に実施されているか」についてA評価の割合が65%以上となったか。<br>② 教職員の人事評価シート「研修」への取組について、全教職員が8割以上の達成状況となったか。  | ①100% ②8割以上の達成状況であった。<br>研究領域：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、研究テーマ：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、研究主題：基礎学力向上を目指した学習指導の充実の共通理解のもと、年間の研修計画に沿って協働学習用ソフトの活用練習、管理職・教員相互授業参観、全国学調等学力や学習指導の分析を全教員で計画的に実施した。<br>①93%<br>職員会議等の資料、教育計画・教材研究に伴う資料等教師用のノートパソコン一つで確認したり使用したりできる環境や職員室内の和やかで職務規律を守る空気感の醸成ができています。                      | A   | 時間外在校時間の縮減を得意分野や課題研修に係る自己研鑽の時間として活用できるよう、教員同士や管理職と教員の対話を重視した研修環境をさらに醸成していく。   | 少ない教員の数でよく児童への指導を行ってくれていると思う。塾等の講義は大半が録画VTRである。業務改善の一つの視点として、対面交流型に録画視聴型を取り入れることも考えられるだろうか。児童生徒はVTRだと1.2倍速や1.5倍速で視聴するかもしれないが。                           |
|             |  | 心身ともに元気で、持続可能な教職員組織を構築する業務改善の実施 | ① 働きやすい職場環境を構築するため、業務改善委員会を中心に、業務改善の提案、実施を行う。   | ① 学校評価（教職員）「積極的に業務改善や時間をかけずに分かりやすい授業等の実施に努めているか」について肯定的な回答の割合が90%以上となったか。   |  | A   | 課題が生じた際は提示・相談・協働ができる教職員関係の醸成、そのつど解決を図ることが全体の膠着状態を防ぐ手立てとなることを軸とした働き方を定着させる。  |   |

